

橿原市立図書館だより

平成29年11月1日発行
第37号

橿の樹

図書館利用に障がいがある人への取り組み

2~5

図書館員の本棚

6

おしらせ、その他

7, 8



としよかんりよう しょう ひと とく 図書館利用に障がいがある人への取り組み

心身の障がいや高齢などの理由で図書館利用に何らかの障がいがある人への取り組みを紹介
します。

LL版図書館利用案内「ようこそ図書館へ」

単語や文章はできるだけやさしく、漢字にはルビを振り、絵文字や写真なども使っただれにでもわかりやすい利用案内です。原案は近畿障害者情報サービス研究協議会、LLブック特別研究グループです。カウンターにあります。ホームページでも公開しています。



図書館利用案内拡大版

通常の文字では少し読みづらい方のために利用案内を少し大きくしました。左は通常版、右は拡大版。カウンターにあります。



白黒反転カレンダー

約 20 年間使用してきたマグネット式の万年カレンダーを白黒反転文字にして遠くからでもはっきり見えるようにしました。視力が低下すると、「白い背景に黒い文字」よりも「黒い背景に白い文字」の方が見やすいという人は多いようです。



貸出冊数、貸出期間サイン

聴覚に障がいがある方のアドバイスにより、よくある質問を白黒反転文字で作りました。図書館によって貸出冊数と貸出期間は違います。



としょかんのコミュニケーションボード

文字やお話しでコミュニケーションが難しい方とイラストを指差すだけで意思を伝えることができます。カウンターにあります。



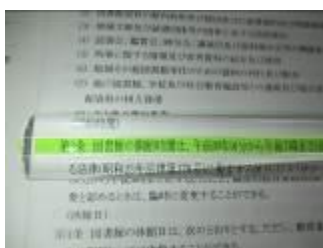
ルーペ・老眼鏡

ルーペは非球面レンズで倍率は 2 倍です。老眼鏡は弱、中、強の三種類あります。カウンターにあります。



リーディングトラッカー

読書補助具の1つであるリーディングトラッカーは視覚障がいのある方の読書をサポートするツールであるとともに、集中して読書をしたい人などにも便利なツールです。2 階カウンターにあります。厚紙と色つきのクリアファイルでも作れます。



リーディングルーペ

断面が半円の棒状のレンズでページの上に置くだけで文字を拡大して見ることができます。底面に、幅4mm のカラーラインがあり、一行ずつ楽に読み取れます。2 階カウンターにあります。



筆談ボード

筆談でコミュニケーションを取る必要があるときに付属のペンでさっと書いてボタン一つで綺麗に消えます。カウンターにあります。

音声対応の休館日案内

ホームページを音声読上げ機能を使って利用する方のために文字だけで休館日案内のページを作成しました。

福原市立図書館 休館日案内

音声読み上げソフトでホームページをご利用の方のために福原市立図書館の休館日を案内します。
2017年8月の休館日は7日、14日、17日、21日、28日です。
8月11日は休館日です。開館時間は午前9時30分から午後5時です。
9月の休館日は4日、11日、19日、21日、28日です。
9月18日、23日は祝日開館日です。開館時間は午前9時30分から午後5時です。
10月の休館日は2日、10日、16日、18日、23日、30日です。
10月9日は休館日です。開館時間は午前9時30分から午後5時です。
おしんご、児童読書など



音声拡大読書器

スキャナー部分に資料を置くと活字を音声で読上げます。縦書き横書きも自動で認識します。キレイな字なら手書きの文字も読上げます。対面朗読室にあります。



拡大読書器

拡大読書器が新しくなりました。資料を下の台に置くと拡大して液晶モニターに映し出します。モニターが大きくなり、ラインマーカー、マスキングの表示等新しい機能も増えました。2階にあります。

対面朗読サービス

活字による読書に障がいのある方(市内)、ご希望の資料を朗読する対面朗読サービスを行っています。事前に申し込みが必要です。

郵送貸出サービス

図書館への来館が困難な方(市内)に、ご希望の資料を郵送でお送りしています。事前に利用申請が必要です。



大活字資料

通常の文字の大きさでは読みにくい方も読書を楽しめるよう、内容はそのままだけに文字の大きさや行間を大きくし、フォントを工夫して読みやすくなるように作り直した本です。通常1冊の本は大活字資料にすると2～3冊になります。



LLブック

簡単な言葉や絵や写真を使ってやさしくよめるようにつくられた本のことです。スウェーデン語の「やさしく読みやすい」の略です。



書名	著者名	出版社
わたしのかぞく	LLブック(やさしく読める本)制作グループ/編	樹村房
はつ恋	藤澤和子/企画・編集・制作	樹村房
アサガオをそだてよう	あかぎ かんこ/さく	埼玉福祉会
セミがうまれるよ	あかぎ かんこ/さく	埼玉福祉会



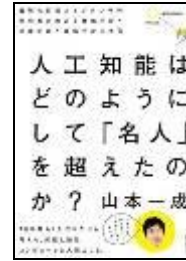
バリアフリーえほん

絵の部分が凹凸になっていたり、墨字と並行して点字が打ってあるなど、絵が見られない人もさわって楽しめます。

書名	著者名	出版社
さわってごらんだれのかお? (バリアフリーえほん 1)	なかつか ゆみこ/さく・え	岩崎書店
サワッテゴランナンノハナ? (バリアフリーえほん 2)	なかつか ゆみこ/さく・え	岩崎書店
さわってごらんいまんじ? (バリアフリーえほん 3)	なかつか ゆみこ/さく・え	岩崎書店
さわるめいろ [1] (てんじつきさわるえほん)	村山 純子/著	小学館
さわるめいろ 2 (てんじつきさわるえほん)	村山 純子/著	小学館
ぞうくんのさんぼ(てんじつきさわるえほん)	なかの ひろたか/さく・え	福音館書店
ぐりとぐら(てんじつきさわるえほん)	中川 李枝子/さく	福音館書店
ノタンじどうしゃぶっぶー(てんじつきさわるえほん)	キヨノ サチコ/作・絵	偕成社
じゃあじゃあびりびり(てんじつきさわるえほん)	まつい のりこ/さく	偕成社
しろくまちゃんのほっとけーき(てんじつきさわるえほん)	森 比左志/著	こぐま社
こぐまちゃんとどうぶつえん(てんじつきさわるえほん)	森 比左志/著	こぐま社
あらしのよりに(点字つきさわる絵本)	きむら ゆういち/文	講談社
これ、なあに?(さわる絵本)	バージニア・A.イエンセン/作	偕成社
ちびまるのぼうけん(さわる絵本)	フィリップ・ヌート/作・絵	偕成社

図書館員の本棚(21)

『人工知能はどのようにして「名人」を超えたのか』



IoT

これを見て、えっ、何？ 絵文字なのか？
と思ったのは、ほんの数ヶ月前。

調べてみると「アイ・オー・ティー」と読み、「Internet of Things」の略で、モノのインターネットと訳すらしい。

ちょっと意識してみると、書店でこの文字を使ったタイトルの本を簡単に見つけることができました。意外と多いというのが実感です。

今やインターネットに接続するのはパソコンだけでなく、自動車、工場機器、医療機器、スポーツ器具などあらゆる「モノ」に接続される時代だといえます。その結果、「モノ」のセンサーで私たちの情報をつかみ、クラウドに蓄積されて、人工知能（AI）などを使って分析し、その結果をうけて私たちの生活に反映させてくれます。

とても快適、便利さをもたらせてくれるものだと感じるものの、この技術や活用方法によって私たちの暮らし、社会、産業等が大きく変わろうとしています。

情報技術の恩恵は受けているものの機器操作の苦手な私は、いよいよ時代の変化に取り残されるのでは、と大きな不安を感じる毎日です。

そして不安に拍車をかけるのが、シンギュラリティという言葉。2045年ごろには人類を超える人工知能（AI）の登場する可能性があり、その時人類は想像もできないような混乱に直面するかもしれないといえます。2045年って、あと28年後。近い将来じゃないか。

ところで、そもそも人工知能（AI）って何？この疑問にわかりやすく答えてくれたのが、最強の将棋ソフト「ポナンザ」の作者である山本一成氏の著書『人工知能はどのようにして名人を超えたのか？』です。

人工知能（AI）なんて理解できない？いえいえ、大丈夫。この本はまるで子育て奮闘記を読むような感覚で一気に読むことができます。そして読後は、機械学習、強化学習、深層学習など人工知能（A

I）のキーワードが、いつのまにかイメージできるようになっています。さらに「人工知能は私たちの子供である」とする筆者は、シンギュラリティは必然的に起こるとし「いい人理論」を提唱しています。

「いい人理論」って？読んでからのお楽しみ。とても人間的な情報技術の本です。

先に紹介した本でプログラムを作ることは、子育てのように感じた私。また小学生の授業でもプログラム学習が始まるとのこと。

ここで、そもそも「プログラムって何？」との素朴な疑問に答えてくれたのが、次に紹介したい本、高橋与志著『教えて♪プログラミング まずは何となく分かることが大切！』です。

調理の手順を題材にした劇中会話の形式なので、小説を読むように一気に読めました。この本には初心者にとって難解だと思えるようなプログラムコードは一切でてきません。しかしいつのまにかプログラミングについて学び、不思議なことに自分でもプログラムが作れるのでは・・・と自信が湧いてくる本です。

以上2冊の本を紹介いたします。今や情報通信技術（Information and Communication Technology）は、日々発展していることが実感できます。ほんの少し前までは携帯電話が使われていましたが、今ではスマートフォンが普及しています。インターネットから様々なアプリをダウンロードして、あの小さな板から驚くほどのサービスを受けることができる時代です。

情報通信技術の発展によって私たちの暮らしや社会は、大きく変化することと思います。

変化の激しい時代に明るい未来を展望する人もいれば、悲観的な未来をイメージする人もいるでしょう。いずれにしろ、将来を築くのは私たち一人ひとりの人間です。

本書を手にとりいただき、夢のある未来をイメージしていただければ幸いです。

《紹介した本》『人工知能はどのようにして「名人」を超えたのか』 山本 一成／著 ダイヤモンド社

『教えて♪プログラミング まずは何となく分かることが大切！』 高橋 与志／著 リックテレコム

お知らせ

橿原市立図書館 古文書講座江戸時代の橿原市の
古文書を読む

図書館が所蔵する地域古文書を読み解く、初心者向けの講座です

日程〔第1回〕12月 3日(日)
 〔第2回〕12月10日(日)
 〔第3回〕12月17日(日)
 ※全3回を通しての参加をお願いします。

時間：いずれも
 午後1時30分～午後3時

場所：かしはら万葉ホール
 4階・研修室1

講師：森本 育寛 氏（郷土史家）

持ち物：筆記用具 ※受講無料

定員：30名（申込順）

◆申込方法

11月3日(金)午前9時30分から受付を開始します。

電話か図書館1階カウンターで申込をしてください。

定員に達し次第、締め切らせていただきます。



「大和国十市郡木原村絵図」

【申込・問い合わせ】

橿原市立図書館 電話 0744-29-2121

ホームページ <http://www.city.kashihara.nara.jp/tosyokan/>

檀原市立図書館

檀原市小房町11-5

TEL:

0744-29-2121

FAX:

0744-29-1011

http:

//www.city.kashihara.nara.jp/tosyokan/

編集後記

学校史切り取り事件

5月中旬「図書館」が新聞、TV、インターネットを騒がせた。「学校史切り取り事件」である。始まりは4月末、岐阜県の図書館。被害資料10冊だったため、大きく取り上げられることはなかった。しかし翌週には中部地方から全国にまで広がった。刃物で切り取られたり、無造作に手で破り取られたり、手口はバラバラだが、切り取られたページはクラスの集合写真や体育祭などの学校行事関係が多かった。動機や犯人像が不明なため、様々な憶測が飛んだ。なりすまし詐欺集団の犯行説、愉快犯、外国人グループの犯行説まで飛び出した。公益法人日本図書館協会によると6月末時点で全国85館443冊が被害にあった。当館の学校史に被害は無かったが、新聞社からの取材や、日本図書館協会への報告書等の対応に追われた。▼図書館は利用者のモラルによって成り立っている。図書館資料は誰でも自由に閲覧できるため、切り取りを防ぐのは困難だ。見回り強化や、防犯カメラの設置という対策もあるが、必ず死角が生じるため全てを防ぐことはできない。大事件にはならないが、新聞や雑誌のクーポン切り取りは、どこの図書館でも悩みの種だ。定期的に掲載されるクーポンは使用できないようにハンコを押す等の工夫をしているが、毎回すべてのページをチェックする時間は無い。切り取り防止のハンコを押す作業は、「ため息」と「悲しい気持ち」しか生まない。

(編者)

檀原市図書館ボランティアの会10周年記念事業

今年で檀原市図書館ボランティアの会が発足して10年になりました。図書館が好きな人、本が好きな人、たくさんの方が集まって、自分たちと同じように図書館が好きな人、本が好きな人のためにボランティアをしようという志のもと10年に渡ってご活躍いただいています。

今回、檀原市図書館ボランティアの会の活動をより多くの人に知ってもらおうとともに、普段のおはなし会とは異なる詩や絵本の楽しみ方を参加者と分かち合うために檀原市図書館ボランティアの会10周年記念事業「おはなしピアノライブ」が檀原市中央公民館分館で7月30日に開催されました。

【当日のプログラムの感想】

まずは工藤直子さんの詩集『のはらうた』の朗読です。朗読に合わせたピアニストの榊原明子さんの伴奏が、まるで野原を吹き抜ける風のように感じられ、ことばとともに情景が目には浮かぶようでした。

続いては『めっきらもっきらどおんどん』の絵本の読み聞かせ。絵本自体リズム感のある絵本で、自分で読むときも、でたらめなメロディをつけて「めっきらもっきらどおんどん」と読んでいたのですが、ピアノの鍵盤をたたきつけるような演奏がおぼけの大きさや不気味さを表現していて、とても迫力がありました。

ここで少し休憩。かきごおりのペープサートで、子どもたちにも参加してもらい楽しく遊びました。

続いてお芝居『うみやまがっせん』の始まりです。会のメンバーが頭にお面をつけて、海のなかまと陸のなかまに分かれて綱引きです。さすがに皆さん、それぞれの生き物にすっかりなりきっています。最後のかにさんのユーモラスな動きに会場はおおはしゃぎでした。

最後に「うらしまたろう」の絵本をプロジェクターで映し、秋野不矩さんの絵に合った静かな演奏と朗読で幕をとじました。

会の活動は大きく3つの班に分かれます。修理班は、破れていたり、ページが外れかけている図書館の本を修理していただいています。おはなし班は、土曜日のおはなし会の第1、第3週目を担当していただいています。ブックスタート班は保健センターで1歳半健診の際に行なっている「ブックスタート」で赤ちゃんとその保護者の方に絵本の読み聞かせを担当していただいています。

楽しいなかまとともに一緒にボランティアをしてみませんか？

表紙の写真

左上から 音声拡大読書器・とよかんのコミュニケーションボード
貸出冊数、貸出期間サイン・拡大読書器・LLブックはつ恋
LL版図書館利用案内ようこそ図書館へ・LLブックわたしのかぞく